令和３年度地震・津波防災訓練
（内閣府・北海道・木古内町）

実施報告書
（概要版）

北海道木古内町について

木古内町は、北海道の南端、渡島半島の南西部に位置する渡島総合振興局管内の自治体である。

基幹産業は漁業・農業・畜産などで、近年は和牛が特産として注目を浴びている。2016年３月には北海道新幹線が開業し、木古内駅は新幹線停車駅となった。

津軽海峡に面しているが、海岸沿いの市街地を除けば殆どが山岳地である。冬は積雪が多く、道南沿岸部の自治体では数少ない特別豪雪地帯に指定されている。このような地理的条件から、 太平洋沖ばかりか、日本海沖における大規模な地震・津波の発生が高い確率で想定されているほか、豪雨・豪雪などの自然災害への備えが喫緊の課題となっている。

木古内町では令和3年4月に各種自然災害に対する施策として「木古内町強靭化計画」を策定し、防災への取り組みを強化している最中であり、本年、津波を想定した避難訓練を実施する運びとなった。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震
マグニチュード8クラスの地震　津波の高さ最大8.9メートル

■実施日時：【訓練実施前WS】令和3年10月31日（日）10:00～12:00
※オンライン開催
【避難経路歩き】令和3年11月27日（土）12:50～15:00
【訓練実施後WS】令和3年11月27日（土）15:00～17:00

■主　　催：木古内町、北海道、内閣府

■参加者数：約17名

■参加機関：佐女川町内会

訓 練 の 評 価

新型コロナウイルス感染症による制約等のため、訓練実施前ワークショップがオンラインでの講話視聴に、実動訓練は避難経路歩きに変更して実施した。

防災専門家（アドバイザー）として、北海道大学理学研究院 附属地震火山研究観測センターの谷岡 勇市郎教授と、前 札幌市 危機管理対策室 地域防災担当係長の早川直喜氏を招き、町内からは木古内駅・町役場周辺の佐女川町内会の役員に参加いただいた。

訓練実施前WSの講話では、早川氏から地区防災計画の概要と必要性について、谷岡教授からは木古内町で想定される災害と寒冷地における避難時の注意点について講話を頂いた。

津波避難経路歩きは訓練実施後WSとともに現地で開催し、職員・町民ともに地区防災計画の必要性について理解を深め、地区防災計画の素案の策定に向けて前進することができた。

避難経路歩きは両アドバイザー同行のもと、木古内駅をはじめ佐女川地区の各所で津波の想定浸水高を計測しながら津波避難所である中央公民館まで実地調査を行ない、津波の脅威について実感を伴ったイメージを深めることができた。

また、豪雪地帯であることから、冬場の避難における懸念点等に関しても意見交換を行なうことができた。

訓練実施後WSでは、避難経路歩きを実施して得た「気づき」や避難場所ごとの特徴についてグループワーク形式で意見を集約しながら参加者同士による評価を行ない、地区防災計画の素案に反映すべき内容を洗い出すことが出来た。

10月31日(日)10:00～12:00 訓練実施前ワークショップ（オンライン開催）

オンラインで開催された訓練実施前ワークショップでは、地区防災計画とは何か、木古内町における津波の被害想定と寒冷地における避難時の注意点についてアドバイザーによる講話視聴を実施した。

▼アドバイザー講演
（札幌市・早川氏）

▼アドバイザー講演
（北海道大学・谷岡教授）

11月27日(土)12:50～15:00 避難経路歩き

地区内の各所で津波の想定浸水高を測定しながら指定避難場所までの避難経路を実際に町職員・住民がともに歩き、経路上の危険箇所の確認を実施した。

公的施設でないことから指定避難場所に指定されていない佐女川神社も避難時には有効となること、スキー場は高台だが地震時に土石流の危険があることなど、地区の地理的特徴について多くの知見が得られた。

▼木古内町長
による挨拶

▼北海道庁渡島総合
振興局による挨拶

▼町中心部の津波
想定浸水高を測定

▼佐女川の津波遡上の
危険を喚起

▼冬季避難時に
おける避難経路上の
危険箇所（坂道）の確認

▼避難場所として
佐女川神社の
活用を検討

11月27日(土)15:00～17:00 訓練実施後ワークショップ

訓練実施後ワークショップを実施して、避難経路歩きの結果をもとに得られた気づきをマッピングして議論や相互採点を実施し、地区防災計画の素案作成の端緒とした。

▼アドバイザー講演
（北海道大学・谷岡教授）

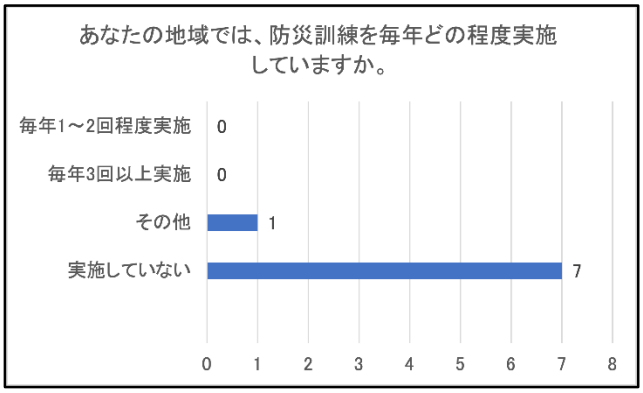
▼アドバイザー講演
（札幌市・早川氏）

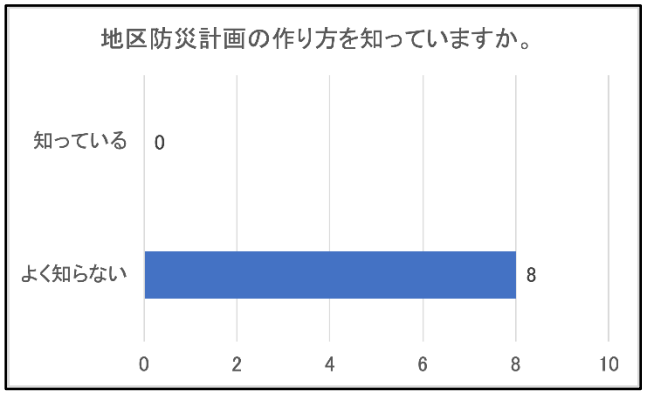
▼グループワーク
の様子

アンケート結果

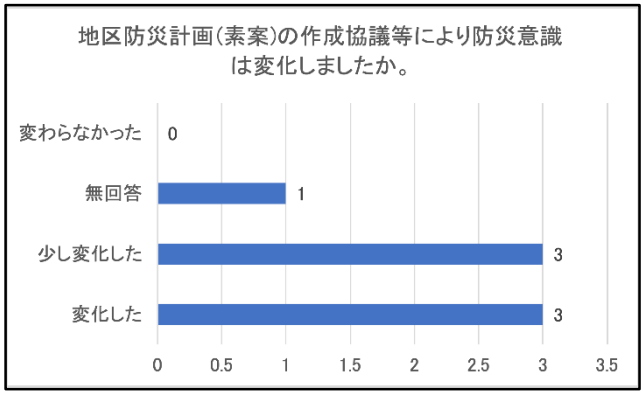
住民の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

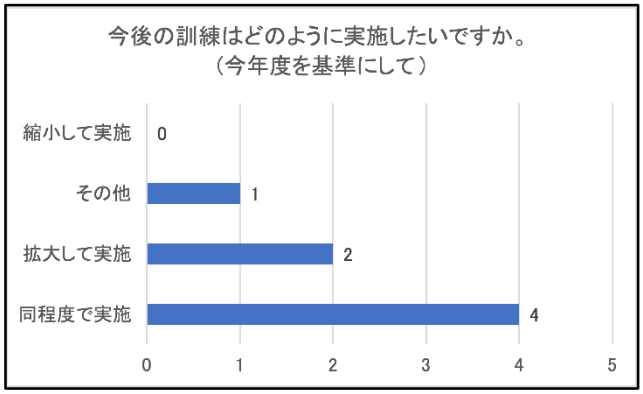
○訓練実施前ワークショップ実施後





○避難経路歩き・訓練実施後ワークショップ実施後





【自由意見】

（津波避難に関する意見）

○冬期間（雪が積もっている状況）の避難経路の確認も必要だと思った。

（地区防災計画に関する意見）

○海が目の前にあるわけではないので、どちらの方向から津波がくるのか、どちらの方向に逃げるのか、地図・方向の把握が効率的に逃げる上で大切である。まち歩きをしたことで、理解・イメージが深まった。

（防災に関する意見）

○外部の人にも浸水区域・浸水深がわかるように標示が必要だと思う。
○避難場所への案内板が必要だと思った。
○避難所を増やしてほしい。
○普段から連絡を密にすることが大切だと思った。

内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

令和３年度地震・津波防災訓練
（内閣府・北海道・鹿部町）

実施報告書
（概要版）

北海道鹿部町について

鹿部町は、北海道の南端、渡島半島の北東部に位置する渡島総合振興局管内の自治体である。地理的には、太平洋内浦湾に面し、北部には活火山である北海道駒ヶ岳（標高1,131m）が存在する。基幹産業は漁業で、町内には3つの漁港を持つ。温泉も多く、全国でも珍しい間欠泉が存在する。

北海道駒ヶ岳は、全国でも活動が活発な火山の一つで、近代では、1929年（昭和4年）に大規模な噴火を起こし、平成8年から平成12年にかけても計8回の小噴火が発生し、鹿部町で想定される大規模災害として認識されている。

また津波災害は、平成23年の東日本大震災を契機に、平成24年に北海道が想定した最大規模の地震による津波を想定し、津波ハザードマップを作成して、北海道駒ヶ岳の噴火災害を想定した避難訓練と隔年で、町主催の津波避難訓練を実施してきた。この度の避難訓練は、2021年に北海道から新たに公表された日本海溝を震源とする津波想定が、これまで想定された津波より3m高く、浸水域が拡大することから、町民の危機意識への啓発を強化し、特に、避難場所の変更を余儀なくされる町内会地区を対象として、内閣府及び北海道の協力を得て実施した。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震
マグニチュード8クラスの地震　鹿部町の津波の高さは12メートル
■実施日時：【訓練実施前WS】令和3年10月13日（水）10:00～12:00
※オンライン開催
【シェイクアウト訓練】令和3年11月5日（金）
【避難経路歩き】令和3年12月8日（水）10:00～12:00
【訓練実施後WS】令和3年12月8日（水）13:00～15:00
■主　　催：鹿部町、北海道、内閣府
■参加者数：約210名（シェイクアウト訓練参加者含む）
■参加機関：鹿部町町内会連合会、※鹿部漁業協同組合、鹿部商工会、鹿部カントリークラブ、鹿部飛行場、幼稚園・小学校・中学校、渡島福祉会 渡島リハビリテーションセンター、鹿部町教育委員会、鹿部消防署
※：以下シェイクアウト訓練のみ参加

訓 練 の 評 価

新型コロナウイルス感染症による制約のため、訓練実施前ワークショップをオンライン開催へ変更したが、津波避難経路歩き、訓練実施後ワークショップは現地で開催することができ、住民自らが自助による避難と地区防災計画の作成に向けて考える端緒とすることができた。

防災専門家（アドバイザー）として北海道大学大学院理学研究院地震火山研究観測センターの高橋浩晃教授、前 札幌市 危機管理対策室 地域防災担当係長の早川直喜氏を招き、町内からは町内7地区の町内会長及び防災部長に参加いただいた。

訓練実施前ワークショップは、新型コロナウイルス感染症対策のためオンライン開催となったが、地区防災計画の概要と必要性、鹿部町で想定される災害について両アドバイザーから講話を頂き、アドバイザーから出された課題を参加者が各自持ち帰って考える形式とした。

避難経路歩きは両アドバイザー同行のもと、住民自ら考えた避難場所へのルートを実際に歩きながらルート選定の議論を実施した。訓練実施後ワークショップでは実際に体験した避難経路上の注意点を地図上に落とし込み、見える化した上で垂直避難の是非についても活発な議論を行ない、多くの気付きを得ることができた。

一連の訓練で出された課題は今後地区防災計画を作成する際に反映し、町内会などの単位で住民に周知していくが、その道筋を付けて今回の訓練を締めくくることができた。

10月13日(水)10:00～12:00 訓練実施前ワークショップ（オンライン開催）

オンラインで開催された訓練実施前ワークショップでは、地区防災計画とは何か、鹿部町で過去に起こった災害と今後の被害想定等についてアドバイザーによる講話を実施した。

▼アドバイザー講演
（札幌市・早川氏）

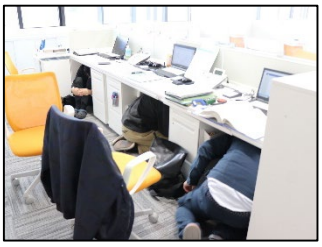
▼アドバイザー講演
（北海道大学・高橋教授）

▼オンラインによる
講話視聴の様子

11月５日(金)10:00～10:10 実働訓練（シェイクアウト訓練）

鹿部町全域を対象に、地域住民が各々の場所で一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施した。訓練は町広報でも告知され、多くの町民が訓練に参加した。

▼鹿部町役場における
シェイクアウト訓練の様子



▼鹿部町社会福祉協議会に
おけるシェイクアウト訓練の様子

12月８日(水)10:00～12:00 避難経路歩き

指定避難場所までの避難経路を実際に町職員・住民がともに歩き、経路上の危険箇所等の検討を実施した。

▼各地点で津波の
想定浸水高を確認

▼避難経路の検討

▼冬期等の一時避難
が可能な施設を視察

12月８日(水)13:00～15:00 訓練実施後ワークショップ

訓練実施後ワークショップを実施して、避難経路歩きの結果をもとに経路上の危険箇所をマッピングして議論・検討を実施した。

▼主催者挨拶
（鹿部町総務防災課・
徳丸照彦防災危険管理官）

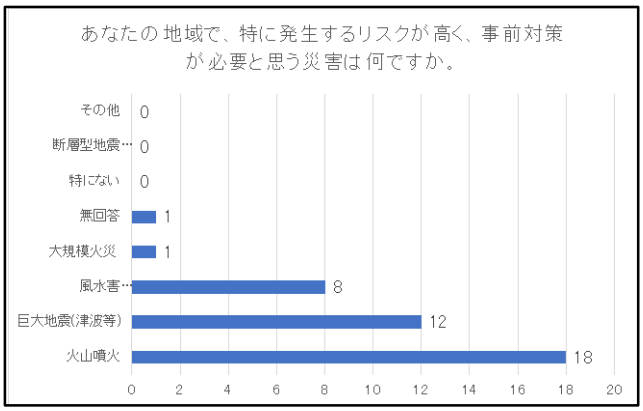
▼アドバイザー講演
（北海道大学・高橋教授）

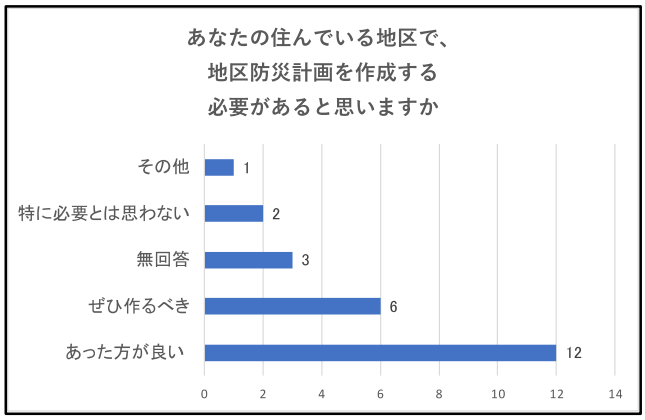
▼ワークショップに
おける避難経路上の
危険箇所の討議

アンケート結果

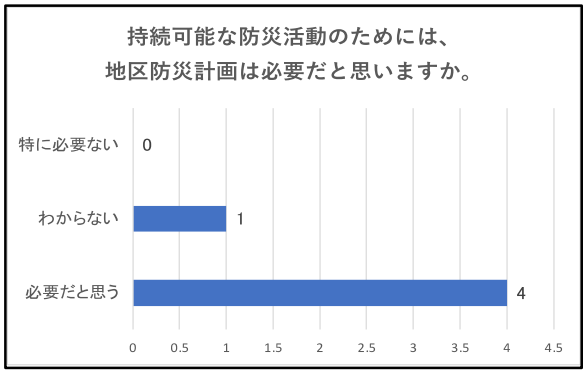
住民の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

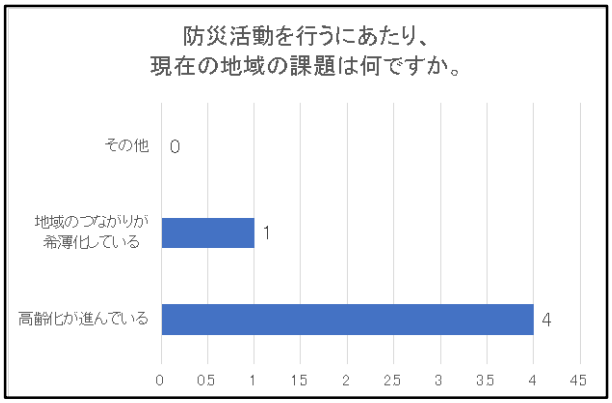
○訓練実施前ワークショップ実施後





○避難経路歩き・訓練実施後ワークショップ実施後





【自由意見】

（津波に関する意見）

○津波の高さに深刻さを感じ、危機感が伝わった。

（地区防災計画に関する意見）

○噴火についてはすでに作成しているが、津波についても作成する必要があると思った。

（防災に関する意見）

○「グラッと来たらすぐ逃げろ」等の家庭掲示用ポスター等のコンパクトな行動啓発もあって良いのではと思った。

内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

令和３年度地震・津波防災訓練
（内閣府・福島県いわき市）

実施報告書
（概要版）

福島県いわき市について

いわき市は、福島県の南東部に位置する中核市である。東北地方で2番目に人口の多い都市であり、福島県では最大の人口および面積を持つ。15の工業団地を有し、製造業を基幹的産業として、水産業や農林業、そして日本三古泉の一つに数えられる「いわき湯本温泉郷」がある小名浜地区を中心とした観光サービス業など、多様な産業が活発に展開されている。

平成23年の東日本大震災では震度6弱を観測し、津波や土砂崩れによる死者は400名以上に及んだ。

この教訓を踏まえ、国・県・市及び防災関係機関による「いわき市防災会議」を開催し、震災における課題を整理するとともに、毎年の防災訓練期間の取り組みとして「いわき市総合防災訓練」を開催するなど、市民の防災意識の向上と市職員の災害対応能力の向上に取り組んでいる。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和３年11月13日午前８時30分に福島県沖で地震が発生し、いわき市において最大震度５弱を観測、30分後の午前９時には津波が到達するとの想定で、いわき市は市内全域に対し、避難を呼び掛けた。

■実施日時：【訓練実施前ＷＳ】令和３年10月23日（土）13:00～15:00
【訓練】令和３年11月13日（土）8:30～10:00
【訓練実施後ＷＳ】令和３年12月４日（土）13:00～15:00

■主　　催：いわき市、内閣府

■参加者数：約250名

■参加機関：自治会自主防災会、いわき市消防団、いわき市消防本部

訓 練 の 評 価

■ワークショップ
防災専門家（アドバイザー）として岩手県立大学総合政策学部の杉安和也講師を招き、市内各地域の自主防災会・連合防災会の役員に参加いただいた。東日本大震災をはじめとする近年の災害から見た避難における課題を杉安講師に紹介いただいた後、グループワークで地区に存在する災害時の危険箇所の洗い出しを実施し、地区防災計画の重要性について認識を深めた。訓練実施後ワークショップでは、各地域における地域の課題を時間軸で整理し、解決方法を検討した。「地区防災計画」「地区防災マップ」の重要性に対する気付きと、策定に向けた機運を醸成することができた。

■防災避難訓練（実動）
東日本大震災において、いわき市内で津波の被害が最も大きかった平薄磯地区で実施された避難訓練では、住民の避難訓練参加者も非常に多く、避難所での検温に時間を要する等の課題もあったものの、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所の開設・運営について知見を得ることができた。避難経路歩きでは避難経路上の危険箇所の確認を実施したほか、ドローンを活用した要救助者探索などの訓練も実施するなど、地震被害の減災に向けて有意義な訓練となった。

（津波避難訓練に関する自由意見）
〇思ったより多くの人が集まっていた。
〇検温箇所で人が集まりすぎていたので、体温計は数を多くし、市民の方々にも協力していただければスムーズに進められたのではないかと思う。集会所等に入れる人数も限られるので考慮することが大事だと感じた。

10月23日(土)13:00～15:00 訓練実施前ワークショップ

訓練実施前ワークショップを実施し、近年の災害から見た避難における課題や、地区防災計画の必要性について理解を深めたのち、災害時の地域の危険箇所について検討した。

▼内閣府挨拶

▼アドバイザー講演（岩手県立大学 杉安和也講師）

▼ワークショップにおける地域の危険箇所の検討

11月13日(土)8:30～10:00 実働訓練（シェイクアウト訓練・津波避難訓練等）

いわき市全域を対象に、地域住民が各々の場所で一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施した。

その後、防災行政無線等による津波避難の呼びかけに応じ、薄磯地区集会所を津波避難場所とする地区住民による津波避難訓練等を実施した。

会場では、ドローンを使用した海岸の要救助者探索も実施された。

その後、薄磯区の鈴木区長らによる災害時の避難経路歩きが実施され、地区内の避難時危険箇所の確認や検証をした。

▼屋外でのシェイクアウト訓練

▼避難所開設訓練

▼地区住民による高台への避難

▼ドローンを使用した要救助者探索訓練

▼避難経路歩きにおける避難時危険箇所の確認

▼いわき市長による訓練の振り返り

12月４日(土)13:00～15:00　訓練実施後ワークショップ

訓練実施後ワークショップでは、事前ワークショップの内容を踏まえ、地域の課題と解決方法を検討し、地区防災計画の策定に向けて理解を深めた。

▼主催者挨拶

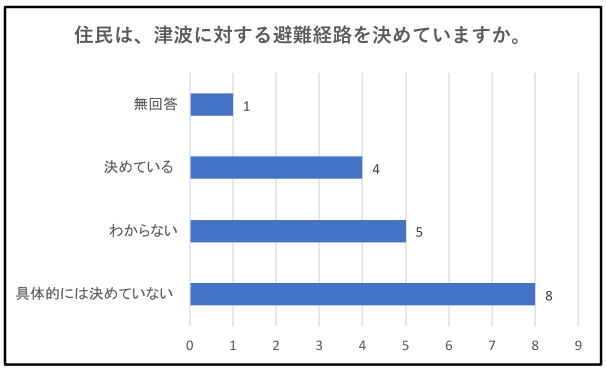
▼アドバイザー講演（岩手県立大学 杉安和也講師）

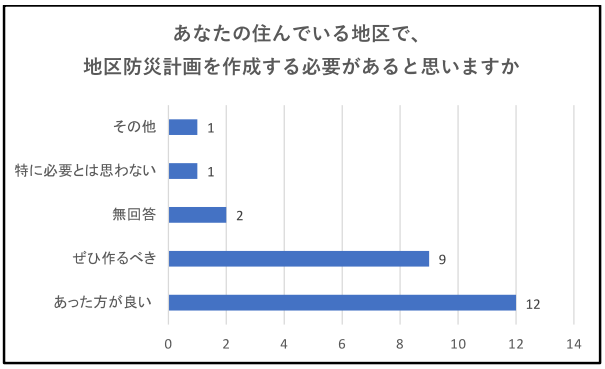
▼ワークショップにおける地域の課題と解決方法の検討

アンケート結果

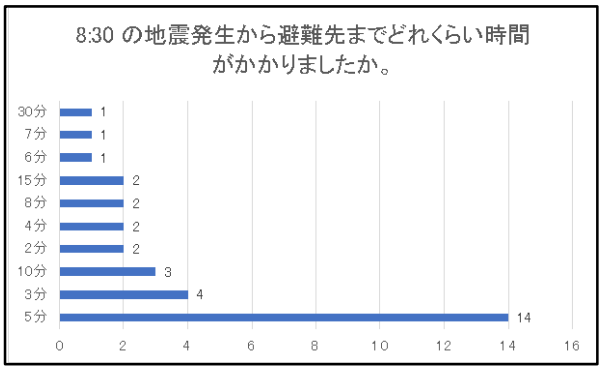
住民の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

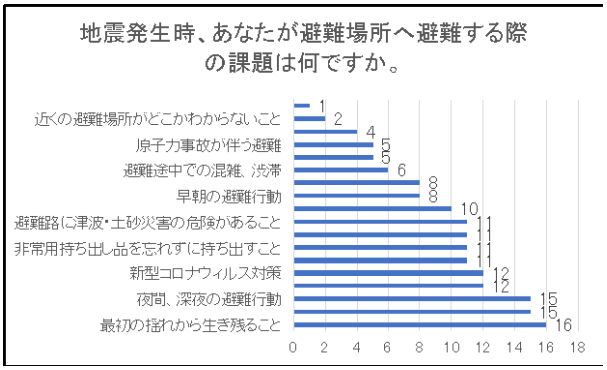
○訓練実施前ワークショップ実施後



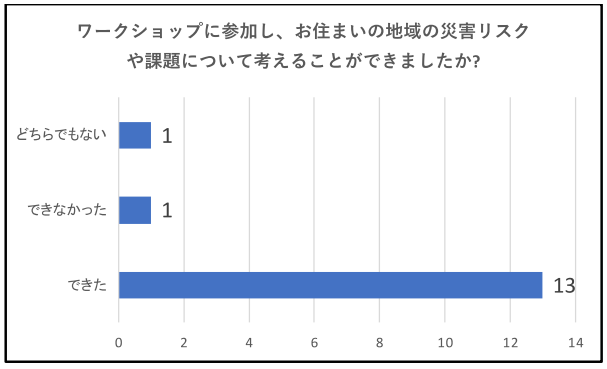


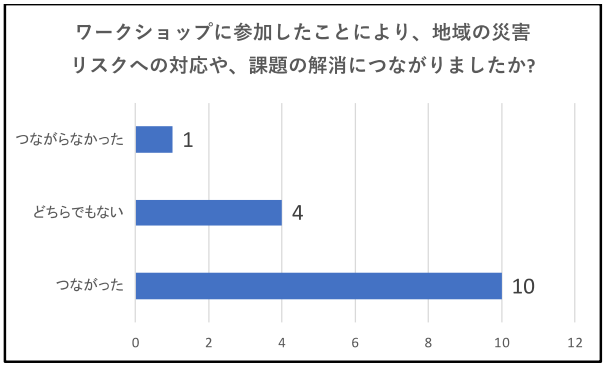
○地震津波避難訓練実施後





○訓練実施後ワークショップ実施後





【自由意見】

（防災全般に関する事項）

○豊間在住の震災語り部として避難訓練に参加した。いかにいち早く『にげる』行動にうつせる（うつれる）か自身の経験を重ねて語り継ぎ、自分事にとらえられるよう貢献していきたい。

（事後ワークショップに関する意見）

○福祉マップを発展させ防災マップに進化させたい。

○今後自主防災組織に対して講評等をお願いしたい。

内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

令和３年度地震・津波防災訓練
（内閣府・千葉県・館山市）

実施報告書
（概要版）

千葉県館山市について

館山市は、房総半島の西南端に位置し、東京の中心部からは100km圏に位置する。西から南にかけては東京湾から太平洋に面している。

海岸線の北部は房総三浦丘陵地の陥没によりできた内湾砂丘海岸が続き、南部には沖合の伊豆七島を控えた外洋砂丘海岸が続いており、沿岸一帯には岩礁が多い。

平成26年３月に「南海トラフ地震防災対策推進地域」、及び「南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域」の指定を受け、大規模地震に伴う津波被害に対する防災対策を推進している。

市では、海岸保全施設等のハード整備に依存した防災対策では限界があり、今後想定すべき巨大災害に対しては、減災の視点に重点を置き、市民の避難行動を軸とした、人命の安全を守る対策を最優先に実施していかなくてはならないと認識している。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：「令和3年12月５日(日)午前9時、紀伊半島南東海域を震源地とする巨大地震が発生。震源地は、紀伊半島沖、深さ：30km、地震の規模(マグニチュード) は8.4。館山市震度：5強を観測。(紀伊半島市町村：震度7、愛知県市町：震度6強)
午前9時2分、千葉県内房に大津波警報が発表。予想される津波最大高は10m。第1波の到達予定時刻は、5日9時30分」との想定のもと、館山市は市内沿岸部に対し、避難指示を呼び掛けた。

■実施日時：【訓練実施前WS第1回】令和3年10月29日(金) 13:00～16:00
【訓練実施前WS第2回】令和3年11月19日(金) 13:00～16:00
【訓　　練】令和3年12月5日(日)　09:00～12:00
【訓練実施後WS】令和4年1月28日(金) 13:00～16:00　※中止

■訓練対象地区：北条地区(令和3年12月1日現在：6,490世帯/12,772人)

■主　　催：館山市、千葉県、内閣府

■参加者数：訓練参加延べ人数　1,847名

■参加機関：北条地区町内会及び自主防災会、館山市消防団、安房医師会、安房郡市消防本部(館山消防署)、館山警察署、千葉県防災危機管理部、千葉海上保安部館山分室、海上自衛隊第21航空群、陸上自衛隊高射学校　等

訓 練 の 評 価

訓練実施前ワークショップにおいては、跡見学園女子大学の鍵屋一教授の指導のもと、過去に起きた災害の振り返りや、町内会など近所で助け合う「近助」を強化するため、それぞれの地区での避難場所の選定や、安全な避難経路などを自ら考えて選定し、実際の避難訓練でその避難場所や避難経路の適否、課題の抽出を行うことができ、「地区防災計画」作成のきっかけとすることができた。

また、津波避難訓練の実施と並行して行なった災害対策本部運営訓練や海上保安庁巡視艇と海上自衛隊ヘリコプター救難機による津波に流された要救助者の捜索・救難訓練、陸上自衛隊が設営した屋外テントを使用した応急救護所での重傷者トリアージ訓練なども実施し、防災関係機関同士の顔の見える関係を構築することができた。

さらに、「災害時、一緒に助かる避難を考える」と題して、鍵屋教授による防災に関する講演会では、市内全域の町内会長、自主防災組織員等235名の参加を得て、防災意識の高揚を図った。

訓練実施後のWSは新型コロナウイルス拡大の影響により中止となったが、来年度、危機管理課主管による「防災講習」の位置づけで、北条地区町内会長等を対象とし、アドバイザーの鍵屋一教授作成の講義用資料を使用した講習を行なうこととし、継続的に防災訓練が実施できるよう計画した。

10月29日(金)、11月19日(金)13:00～16:00　訓練実施前ワークショップ

訓練実施前ワークショップでは自助・近助の重要性を理解し、津波避難の際の避難場所や避難経路を自ら選定し、避難訓練で確認して、地区防災計画等の必要性を検討した。

▼主催者挨拶

▼アドバイザー講演
（跡見学園女子大学
鍵屋一教授）

▼グループ討論の様子

12月5日(日)09:00～09:35　シェイクアウト訓練・津波避難訓練

防災行政無線の放送により、一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を行い、その後、各町内会ごとに選定した避難経路で避難場所へ徒歩による避難訓練を行った。
また津波避難ビル屋上への避難訓練も実施された。

▼津波避難場所
への避難訓練

▼津波避難ビル
への避難訓練

▼津波避難ビル
屋上への避難

12月5日(日)09:00～12:00　防災関係機関連携訓練・防災に関する講演会

災害対策本部訓練と並行して、海上における要救助者の捜索救難等、防災関係機関の連携訓練を行った。

訓練後には、千葉県立館山総合高等学校で鍵屋教授による防災に関する講演会『災害時、一緒に助かる避難を考える』を実施。訓練参加者をはじめとする多くの市民が参加し、災害時の行動の優先順位と、地域防災計画の重要性について理解を深めた。

▼海上における
要救助者の捜索救難訓練

▼救助した要救助者を
館山消防署救急隊へ患者移管

▼鍵屋教授による防災
に関する講演会

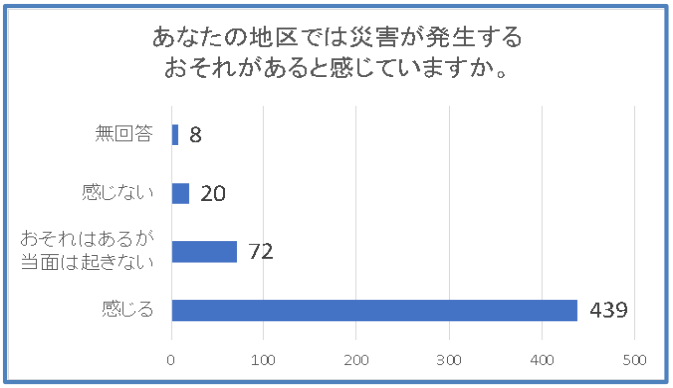
▼防災用品の配布

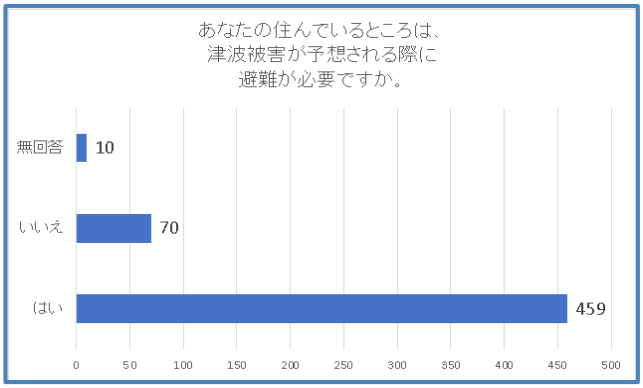
▼館山市長による
訓練講評

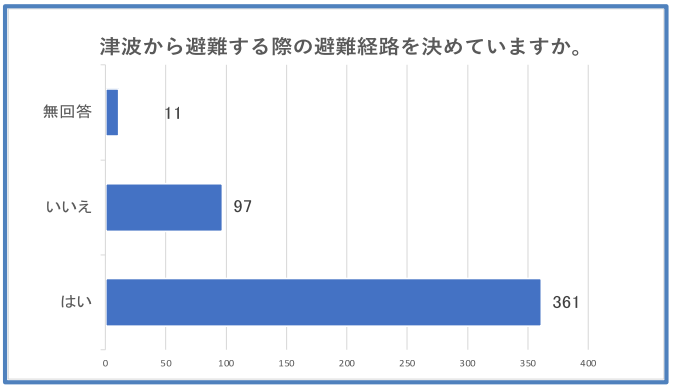
訓練実施後ワークショップは新型コロナウィルス拡大の影響により中止となったため、来年度、危機管理課主管による「防災講習」の位置づけで、北条地区町内会長等を対象とし、アドバイザーの鍵屋教授作成の講義用資料を使用した講習を行なうこととした。

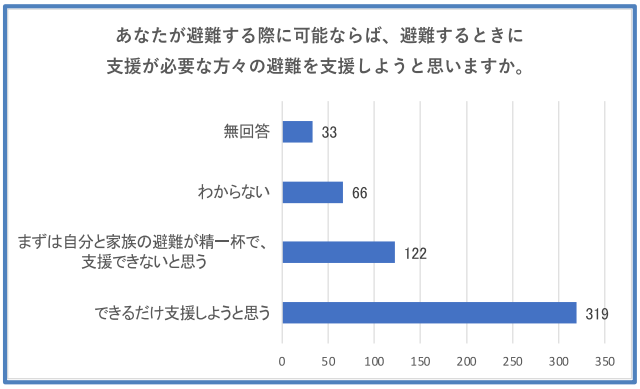
アンケート結果

住民の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

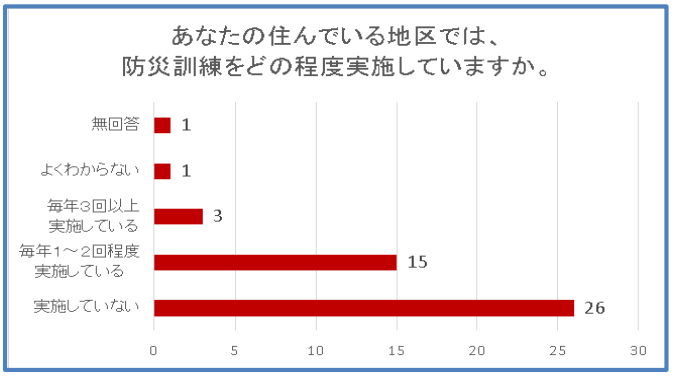


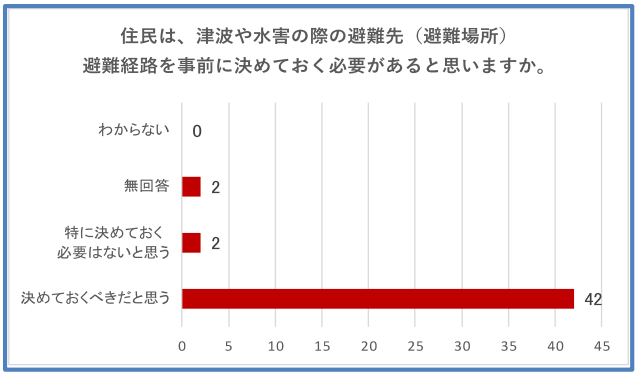






防災意識や防災難対策への取組み状況等を把握するため、館山市の自主防災組織等のリーダーを対象にアンケート調査を実施した。





（実動訓練及びＷＳ参加者の自由意見等から）

【津波避難訓練に関する意見】

〇台風15号以来、災害に対する価値観に変化はあったものの、なかなか自分事として捉える事が難しかったが町内での訓練を通して自分自身への意識付けに大いに役に立ち有意義な訓練であった。

〇実際に館山中学校の屋上までのぼる体験をすることができて良かった。高齢の方は屋上にのぼるのに思ったより時間がかかること、手すりのない階段もありのぼりにくい箇所があることがわかった。

〇介護が必要な方々の避難の仕方も訓練したい。

内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

令和３年度地震・津波防災訓練
（内閣府・千葉県富津市）

実施報告書
（概要版）

千葉県富津市について

富津市は、房総半島の西部に位置し、県庁所在地である千葉市から約40kmに位置する。西部は東京湾に面している。

富津岬から北側は京葉工業地帯となっているが、南側は南房総国定公園に指定され、フェリーターミナルの浜金谷港や地方港湾に指定されている上総湊港、多くの漁港を有する。

富津市では、平成26年度まで小学校区単位で総合防災訓練を実施してきたが、同じ学区内でも津波災害や土砂災害など環境によって災害想定は異なることを踏まえ、平成27年度から、地区単位による各地区主催の防災訓練を実施している。

令和元年房総半島台風の経験から、風水害に対する備えや意識は高いが、津波災害に関しては、脅威の認識はあるものの、被害地域が沿岸部に限定され、かつ、その経験値も乏しいことから、津波避難訓練の実施と地区防災計画の見直しを実施する運びとなった。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和4年2月6日（日）午前9時、相模トラフを震源とする大地震が発生し、富津市では震度6弱の揺れに見舞われた。地震発生後、気象庁は直ちに千葉県内房に対し大津波警報を発表した。竹岡地区の住民は、大きな揺れの間、机の下に入るなどして自らを守る行動を行った。揺れがおさまったのち、住民は竹岡地区沿岸に地震発生から約10分以内に津波の影響が始まり、その後最大高さ10mの津波が到達することを想定し、最寄りの避難場所や高い場所へ避難を開始した。

■実施日時：【訓練実施前WS】令和4年1月23日（日）10:00～12:00　※中止
【訓　　練】令和4年2月 6日（日） 9:00～12:00　※中止
【訓練実施後WS】令和4年2月27日（日）10:00～12:00　※中止

■訓練対象地区：富津市竹岡地区（シェイクアウト訓練は市内全域）

■主　　催：富津市、内閣府

■参加者数：WS・避難訓練 参加延べ人数　330名（予定）

■参加機関：富津市竹岡地区、富津市消防団、富津市消防本部、富津警察署、富津市役所　等

訓 練 の 評 価

地区防災計画策定に係る地震津波避難訓練及びワークショップは、横浜市立大学 国際教養学部 都市学系 都市防災計画研究室 石川 永子 准教授の指導のもと、内容を検討した。富津市竹岡地区は、海岸に近い避難場所が急峻な高台上に位置している等の条件を踏まえ、訓練及びワークショップの課題は、地区住民の知見を生かした避難経路と公共施設以外の避難場所の再認識・検証を主眼とした内容を検討した。47%と極めて高齢化率が進展していることから、自動車を利用した集団避難訓練も検討した。

ワークショップは、訓練対象地区である竹岡地区の地震・津波発生時の避難経路上の危険箇所や防災資源について、グループに分かれて話し合う内容を計画した。

避難訓練（実動訓練）は、市全域を対象としたシェイクアウト訓練のほか、竹岡漁港を起点に事前ワークショップで考察した避難要領をもとに、それぞれの避難場所へと避難を実施する訓練を計画した。また、同日には「地域で考える津波避難～共助と地区防災計画の重要性～」と題して、石川准教授による防災に関する講演会を実施し、防災意識の高揚を図る計画であった。

新型コロナウィルス感染症拡大の影響によりワークショップ及び訓練は中止となったが、本計画を活用し来年度以降実施する予定である。

令和４年１月23日（日）　事前ワークショップの計画

実施に当たり、竹岡地区の現地調査、地元区長への説明会及びヒアリングを実施し、住宅地から旧竹岡小学校に至る経路上の危険箇所の調査を実施した。

ワークショップでは、避難経路上の危険個所のマッピングおよび、地震発生から避難場所へ到達するまでのタイムラインについて検討を実施することとした。

なお、ワークショップの各班には事前に研修した学生およびスタッフによる書記を配置し、円滑なグループワークの実施補助をすることとした。

▼津波遡上リスクのある地区内を流れる白狐川を現地調査

▼避難経路である県道91号とＪＲ内房線の交差地点

▼指定避難場所以外の避難可能箇所（神社）

▼竹岡地区コミュニティセンターにおける区長らへの説明

▼説明会における地形図を使用したワーク作業

▼地形図に津波避難が可能な施設を記入

令和４年２月６日（日）シェイクアウト訓練・津波避難訓練の計画

市内全域で一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を行い、その後、海岸沿いの市街地・漁港から高台上の指定避難場所へ、徒歩による避難訓練を行うこととした。予め現地調査では避難経路上の危険箇所だけでなく、地区内に点在する防災資源等を調査し、この訓練に資することとした。

訓練後は、旧竹岡小学校体育館にて「地域で考える津波避難～共助と地区防災計画の重要性～」と題して、石川准教授による防災に関する講演会を実施することとした。

▼避難開始場所となる竹岡漁港

▼避難経路上の危険箇所（吹付コンクリート）

▼避難経路上の危険箇所（石垣・急勾配）

▼津波避難場所・萩生集会所と防災倉庫（海抜18.9m）

▼避難に資する防災資源（リヤカー）

▼防災資源（機材倉庫）

アンケート調査

住民の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を計画した。

特筆すべき内容としては、避難訓練時の参加者アンケートには地図を掲載し、実際に避難した経路と、経路上の危険箇所を書き込むことができる「参加者避難マップ」形式とした。このアンケートは回収後に集計し、多くの住民が避難した経路は太線にするなどして、避難時の行動を見える化することで、訓練実施後ワークショップ開催時に全員で課題共有できるようにした。また、集約した内容は地区防災計画の見直しをする際に活用できる設計とした。

富津市　地震・津波防災訓練　アンケート　　（裏面もあります）

質問1
あなたが避難した経路を地図上に書いてください。

質問２
自宅の周辺や避難経路上で、危険個所や避難が難しい場所等があれば×をつけてください。

質問３　質問２で×をつけた理由や状況を書いてください。

質問４　あなたやご家族が津波からの避難で心配なことがあれば書いてください。

質問5　地震発生から避難先までどれくらい時間がかかりましたか。

（約＿＿＿＿＿分）

質問6　あなたの町内会の「町内会自主防災会」等で取りまとめている避難に関する内容を再度検討して「地区防災計画」を作成することについてどう思いますか。

□ ぜひ作成すべき　　□ どちらかと言えば作成した方が良い
□ 今のままで良いと思う　　□ その他・よくわからない
(その他の理由：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿)

質問7　地震発生後、あなたが津波避難場所へ避難する際の課題は何だと思いますか。

□避難経路の混雑　　□夜間の避難　　□要配慮者の避難等
□その他　（　　）

質問8　地震発生後、あなたが津波避難場所へ避難する際の課題は何だと思いますか。

□避難経路の混雑　　□夜間の避難　　□要配慮者の避難等
□その他　（　　）

質問9　本日の訓練は、今後の防災活動の充実を目的に実施しました。
地区防災計画にはどのような内容を記載すべきだと感じましたか。

次ページに続きます

内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

令和３年度地震・津波防災訓練
（内閣府・高知県高知市）

実施報告書
（概要版）

高知県高知市について

高知市は四国南部の中央付近、東経133度31分53秒、北緯 33 度 33 分 32 秒に位置し、東西最長 21.49km、南北最長 24.83km であり、市域面積は 309.00 k㎡となっている。市の北部には急峻な四国山地があり、標高 1,176mの工石山を有する山地が東西に連なっています。また、南部では丘陵地帯が浦戸湾を挟んで東西に連なっている。

高知市泉野小学校区では、地元の自主防災連合会が中心となり、地域の津波避難の在り方を検討してきた。

高知市では，津波被害から命を守るために，市民一人ひとりが「津波から避難する」意識を高め、お互いに助け合い、津波が到達するまでに安全な高台や津波避難ビルなどへ迅速に避難することを目的とした地区別の「津波避難計画」を地域の自主防災組織等と策定しており、泉野小学校区も策定している。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■想定：令和3年10月31日10時15分，四国沖の南海トラフを震源としたマグニチュード9.0の巨大地震が発生。高知市内では，震度7を観測し，沿岸部，平野部の広い範囲で最大震度7から6強，山間部でも最大震度6強から6弱を観測。

■実施日時：【訓練実施前WS】令和3年10月23日（土）
【訓練】令和3年10月31日（日）10:00～14:00
【訓練実施後WS】令和3年10月31日（日）15:00～15:30

■主　　催：高知市、内閣府

■参加者数：約500名

■参加機関：国土交通省四国地方整備局（高知河川国道事務所 ／土佐国道事務所 ／ 高知港湾・空港整備事務所）気象庁高知地方気象台、海上保安庁高知海上保安部、防衛省陸上自衛隊第50普通科連隊高知県、高知県警察、高知市消防局、高知市上下水道局高知市消防団、日本赤十字社、NTTグループ、高知県LPガス協会、四国電力送配電（株）、高知県トヨタ販売店グループ、中四国丸和ロジスティクス(株)、高知シティエフエムラジオ放送(株)、NPO法人AMDA、NPO法人PWJ

訓 練 の 評 価

新型コロナウイルス感染症が流行している中、感染症対策を徹底し、泉野小学校区全住民対象とした訓練を実施することができた。

訓練前日の悪天候により、当日は屋外の防災イベントは実施することができなかったが、市民、市職員、参加機関等合わせて約500名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、地域住民のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や津波避難訓練の参考となるよう「得られた成果と対策案」を整理した。

【得られた成果】

○避難訓練では、地域住民が一時避難所から二次避難所へ移動する中で避難経路の危険個所等を確認することができた。

○避難所開設訓練では一部住民参加のもとで受付実施等の開設手続きを確認し、平時からの取り組みの重要性について行政、住民、施設職員、消防団等で認識を共有できた。

【今後の対策案】

○市内中心部においては地震発生後、市が指定している避難所への避難経路が土砂災害や渋滞等により通行できなくなる可能性があり、市の指定する避難所の他、地区毎に、津波からの一時的な避難先を検討しておくことが重要である。

○次年度以降、訓練参加者の増加を促すために、住民への防災の意識醸成を図るための情報発信や定期的なワークショップの場の創出が重要である。

10月23日(土)14:00～16:00 事前ワークショップ

地震津波対策の重要性や自助・共助の必要性についてアドバイザーの大槻先生(高知大学)より講演いただいた。また地域の現状の再確認として、過去の災害や避難経路上の危険な箇所等についてグループワークで共有を図った。

▼アドバイザー講演
（高知大学・大槻准教授）

▼ワークショップにおける
避難経路上の危険箇所の討議

10月31日(日)10:00～14:00 実働訓練（シェイクアウト訓練・津波避難訓練等）

緊急地震速報の発表後、市民は、自宅でシェイクアウト訓練を実施し、まずは自らの身を守る行動をとることの重要性について再度認識した。続いて、一次避難所である高台へ避難した後、二次避難場所である泉野小学校へ避難する訓練が行われた。

泉野小学校では、自主防災組織のメンバーや関連企業・団体が参加し、自助共助の考え方のもと、主体的に住民が動けるよう、避難所開設・運営訓練、避難所開設訓練を実施した。

また、小学校内では、陸上自衛隊第50普通科連隊と協力し炊き出し訓練や物資配送訓練等を実施し。大人数への供食について理解を深め。

▼シェイクアウト訓練

▼津波避難訓練

▼避難所開設訓練

▼避難所運営訓練

▼炊き出し訓練

▼物資配送訓練

10月31日(日)15:00～15:30　訓練後ワークショップ他

アドバイザー協力のもと、訓練の振り返りを実施し、地震・津波発生時に地域で想定される課題や必要となる共助についてグループワークで整理を行った。

また住民の防災への意識醸成にむけた啓発資料を作成した。

▼訓練の振り返り

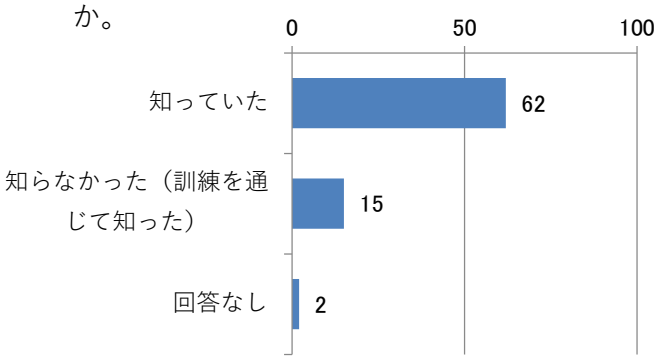
▼普及啓発資料

アンケート結果

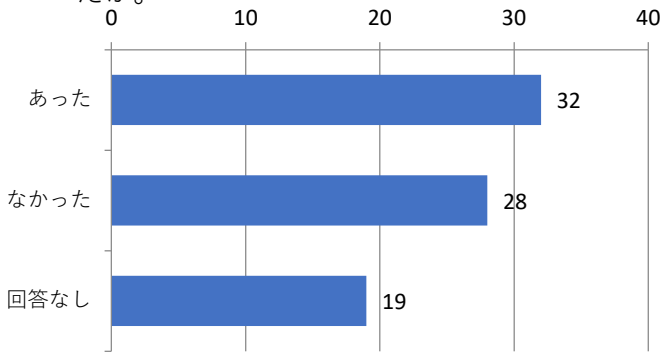
住民の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

〇住民アンケート調査（回収数：79）

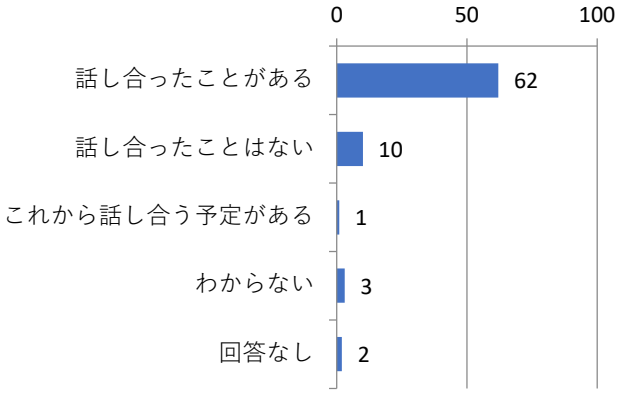
津波に対する避難場所を知っていましたか。



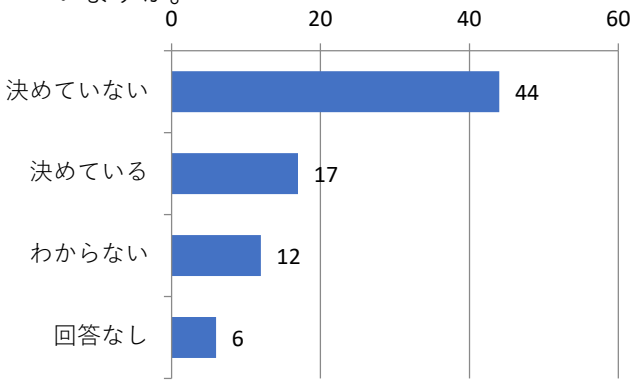
避難経路に危険な場所はありませんでしたか。



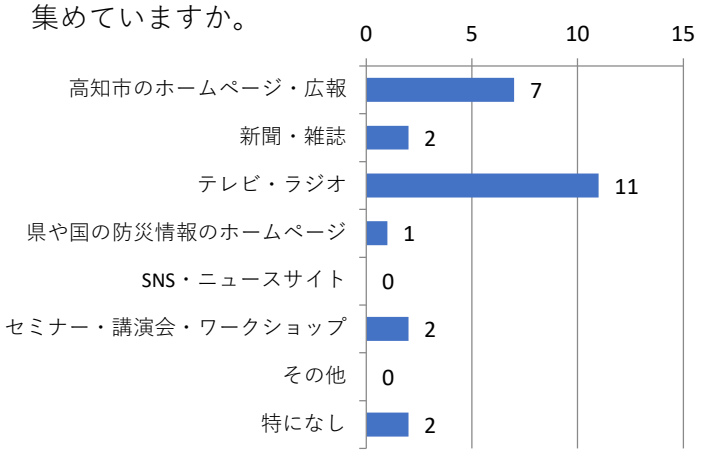
あなたの地域で「災害時の避難について」話し合ったことはありますか。



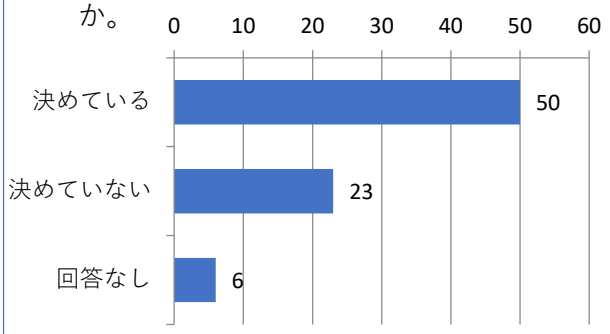
災害が発生した、または発生しそうなとき、ご近所での助け合いの方法を決めていますか。



日ごろ、防災に関する情報・知識はどこから集めていますか。



災害時に、家族同士どのように連絡を取るか、家族の中で決めていますか。



内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

令和３年度地震・津波防災訓練
（内閣府・高知県四万十町）

実施報告書
（概要版）

高知県四万十町について

四万十町の位置は、高知県の西部を東から西へ流れる四万十川の中流域にあり、東南部は土佐湾に面しています。町域は東西 43.7km、南北 26.5km、総面積 642.3㎢キロメートルであり、そのうち林野が約 87%を占めている。

四万十町志和地区では、自主防災組織の活動が活発であり、年に2回昼と夜の避難訓練を実施している。現在要配慮者への避難対策が課題となっており、地区内に住む要配慮者を対象に個別避難計画を作成し、近隣住民と連携した避難訓練実施および検証を進めているところである。また、定期的に防災新聞を発行し、地域住民への普及啓発にも努めている。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■想定：令和４年３月25日（金）13時30分、四国沖の南海トラフを震源としたマグニチュード9.0の巨大地震が発生。四万十町では，震度６強を観測し，沿岸部，平野部の広い範囲で最大震度７から６強，山間部でも最大震度６強から６弱を観測。
■実施日時：【訓練実施前WS】令和４年３月10日（木）
【訓練】令和４年３月25日（金）13:30～14:00
【訓練実施後WS】令和４年３月25日（金）14:00～16:00
■主　　催：四万十町、内閣府
■参加者数：約８名
■参加機関：志和地区自主防災組織

訓 練 の 評 価

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、全住民参加による大規模訓練が中止となったが、感染症対策を徹底し、要配慮者の避難対策の検証を目的とした訓練を実施することができた。

訓練では、要配慮者の自宅から避難を開始するシナリオで、要支援者役の町民および市職員等合わせて８名で、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、まち歩きによる現場検証や参加者同士の意見交換により、今後の防災対策や津波避難訓練の参考となるよう「得られた成果と対策案」を整理した。

【得られた成果】
○今回対象とした要配慮者の避難訓練では、避難経路上のブロック塀等の危険個所等を確認することができた。
○避難所までの経路は上り坂であり、車椅子で避難場所まで逃げることはサポートをするメンバーの負担が非常に大きく、上り坂では車を活用するなど移動方法の検討が必要であることが分かった。

【今後の対策案】
○定期的に実施する避難訓練で、今回実施したようなまち歩きによる検証を行い、避難上における危険個所を個別に明らかにし、特にブロック塀対策を進めていくことが重要である。
○今回要配慮者１名に対する避難検証を実施したが、次年度訓練では、地区の要配慮者および地域住民一斉の訓練で円滑に避難ができるか検証することが必要である。
○次年度以降、訓練に参加しない住民への参加を促すための工夫を検討することが求められる。

３月10日(水)18:00～19:00 訓練実施前ワークショップ

10月に町独自で実施した訓練の振り返りを踏まえ、アドバイザーの大槻准教授(高知大学)より話題提供をいただきながら、津波避難に関する現状と課題点を抽出し、訓練に向けての改善策の検討や災害時の避難の方法に関する意見交換を実施した。

▼ワークショップ(オンライン形式)

３月25日(金)13:30～14:00 実働訓練（シェイクアウト訓練・津波避難訓練等）

要配慮者を対象に訓練を実施した。

自宅でシェイクアウト訓練を実施後、要配慮者が車椅子に乗り、地区住民が車椅子をロープで引っ張って避難所まで避難する訓練を実施した。

また避難訓練実施後、アドバイザーを交え、防災倉庫や仮設トイレ設置状況を確認し、防災対策が万全にされているかチェックを行った。

▼避難訓練

▼仮設トイレ確認

３月25日(金)14:00～16:00　訓練後ワークショップ

アドバイザーを交えて、訓練の振り返りおよび避難経路を検証するまち歩きを行った。既存の避難マップに危険個所を盛り込むことや、車椅子を何度もロープで引っ張ることの大変さから軽トラックを使用することはできないかなど次年度の訓練に向けた改善点を整理した。

また、住民への意識啓発が課題となっており、学生と一緒に避難マップを考えるなど今後の対応方策について検討した。

▼ワークショップ様子

実動訓練・ワークショップを通じた具体的な成果

今回の一連の訓練とワークショップを通じて、志和地区での要配慮者避難支援を通じた今後の津波避難対策の着眼点と方向性をまとめた。

【要配慮者の支援方法】

〇津波避難時を要配慮者に支援する軽トラックの移動経路を決めておく。地点間を往復する形が効率的と考えられるが、台数を確保することも大切である。

〇避難支援の軽トラックのさらなる確保にあたり、軽トラックを所有する地区内の寺社に相談を続けていくが、引き続き訓練でも検証する。

〇軽トラックが通行する道路ではブロック塀の倒壊対策が必要である。

【避難路の整備】

〇行政が主体となる取組であるが、整備にあたり、まずは住民が課題と要改善箇所を把握し、意識を高めていくことが必要である。防災マップの作成等を通じて、皆で検討していく。

【地区内の空き家対策】

〇空き家は住人がいないことから所有者が防災上の課題に気づきにくい。町と連携して、まずは実態を明らかにしていく。

【地区独自の防災マップの作成】

〇自らの地区の津波避難上の危険性に気づいてもらうためには住民が作成しなければならない。

〇小学生の視点から「危ない場所」を確認したり、大学のサークル活動と一緒にまち歩きをしながら作成するアイデアがある。

〇ハザードマップは過去に作成しているが、ブロック塀の地震時倒壊の危険性を示すなど見直しの必要がある。

【津波避難後の避難生活】

〇避難場所には食料の備蓄はあるが、津波浸水により 孤立する可能性が高く、避難場所で長期間過ごすことがある旨の意識を高めていく必要がある。

令和３年度地震・津波防災訓練
（内閣府・福岡県豊前市）

実施報告書
（概要版）

福岡県豊前市について

豊前市は、福岡県の東南部に位置し、北で周防灘に面している。 市内には岩岳川、佐井川などの河川が流れている。交通網としては、東九州自動車道、国道10号およびJR日豊線が通っている。

豊前市では、地震や津波による被害は記録されていないが、南海トラフの地震と、それに伴う津波によって浸水が想定されており、警戒が必要となっている。

市は、東日本大震災を契機に、防災訓練を毎年実施しており、地震・津波を想定した避難訓練や台風の接近による河川氾濫を想定した避難訓練などを行っている。

今回の事業では、出屋区を対象とした津波避難訓練として、地区内の軽費老人ホーム「ケアハウスさくら」との連携による訓練を実施した。また、訓練実施前後にワークショップを開催し、訓練前には実施すべき内容の確認を行い、訓練後には、訓練のふり返りと今後の訓練のあり方について話し合った。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和３年11月７日（日）午前９時00分に、南海トラフを震源とする地震が発生し、市では震度５強を観測、豊前市付近には大津波警報が発表された。ケアハウスさくらでは、津波に備え上層階への避難訓練を、周辺地域（出屋区）では、避難場所（ケアハウスさくら駐車場）への避難訓練を実施した。

■実施日時：【訓練実施前ＷＳ】令和３年10月22日（金）19:00～21:00
【訓練】令和３年11月７（日）９：00～12：00
【訓練実施後ＷＳ】令和３年11月24日（水）19:00～21:00
令和４年３月14日（月）19:00～21:00

■主　　催：豊前市、内閣府

■参加者数：約250名

■参加機関：出屋区内の住民、福祉社会法人豊前東明会（ケアハウスさくら）、豊前市消防団、豊前警察署　等

訓 練 の 評 価

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う各種制約の中、訓練参加者を施設内と施設外に区分して、地震・津波防災訓練を実施した。津波発生を想定した避難訓練後に参加機関の協力のもと、応急救護訓練・パネル展示・車両展示他、各種体験訓練を実施した。訓練当日は天候にも恵まれ、市職員や参加機関等合わせて約250名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、地域住民のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や津波避難訓練の参考となるよう「得られた成果と対策案」を整理した。

【得られた成果】

〇ケアハウスさくら内では、職員が防災頭巾を入居者に配布し、階段を使って上層階誘導する訓練となったが、職員の的確な行動により円滑に実施できた。

〇出屋区住民の避難訓練については、徒歩による避難に加え、要配慮者についてはケアハウスさくらの協力による、車椅子の貸し出しや、車両による輸送も実施し、十分な成果を挙げることができた。

〇駐車場で開催した、各種体験型訓練では、多くの参加者が実際に体験することができた。

【今後の対策案】

〇今回は日中の災害を想定し円滑な避難ができたが、夜間などのケアハウス職員の人数が少ない時間帯で対応できるかについて検証が必要である。

〇出屋区内でも住宅の場所によっては、ケアハウス以外の避難場所の設定も必要ではないかとの住民意見もあり、最適な避難行動についてさらに検討が必要となっている。

10月22日(金)19:00～21:00 訓練実施前ワークショップ

地区の役員等を対象とし、訓練予定内容の説明のほか、グループワークを通じて、地域の津波防災における課題の再確認や、避難場所入口での受付訓練、AED訓練等を実施することで、住民の知識や技術の習得が図れるのか確認を実施した。

▼グループワーク

▼アドバイザー講評
（宇都宮大学　近藤准教授）

11月７日(日)9:00～12:00 実働訓練（シェイクアウト訓練・津波避難訓練等）

緊急地震速報の発表後、市民は、各自の居場所でシェイクアウト訓練を実施した。その後、浸水域内の施設では、津波に備え上層階への避難訓練が行われ、周辺地域では、徒歩による避難に加え、車椅子や車両を活用した避難場所までの避難を行った。

また、施設の駐車場では、出屋区住民とケアハウス関係者に向けた、応急救護訓練・パネル展示・車両展示他、各種体験訓練が行われた。

▼シェイクアウト訓練

▼避難訓練（施設内）

▼避難誘導訓練(施設内)

▼避難場所への移動訓練

▼車椅子での搬送訓練

▼受付訓練

▼講話(会場内)

▼煙ハウス(駐車場)

▼車両体験(駐車場)

11月24日(火)、３月14日(月)　19:00～21:00　訓練実施後ワークショップ

訓練の内容について振り返るとともに、有識者による防災講演を実施した。その後、地域の防災上の課題をグループワークで話し合い、次年度に各地区で実施する「地区毎の課題を踏まえた防災訓練」の内容について検討を行った。

▼アドバイザー講演
（オンライン）

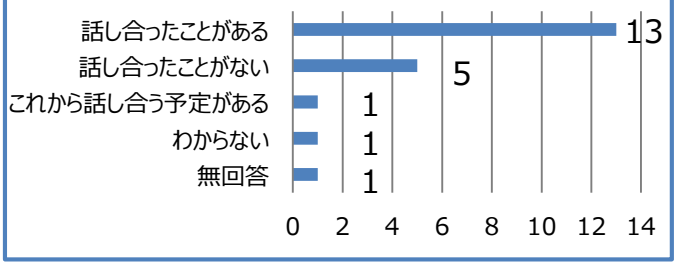
▼次年度訓練内容の検討

アンケート結果

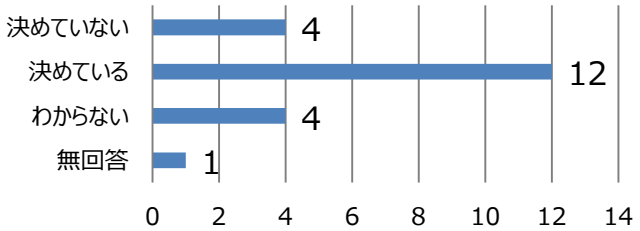
11月７日の防災訓練の会場にて、住民の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

〇地域住民（アンケート回収数：21）

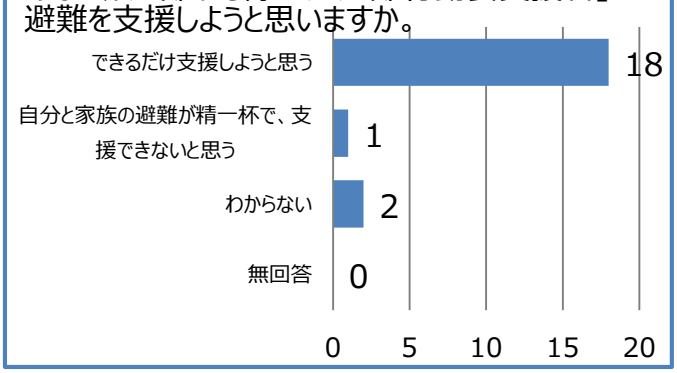
あなたの地域(ご近所)で「災害時の避難について」話し合ったことはありますか。



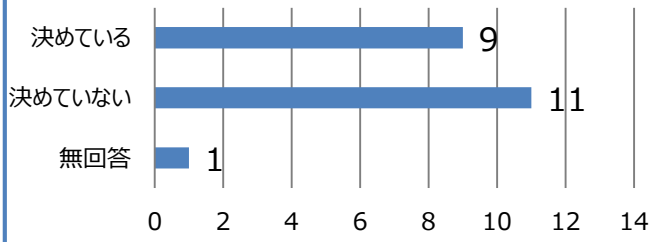
災害に備えて、ご近所での助け合いの方法を決めていましたか。



あなたが避難する際に、「避難行動要支援者」の避難を支援しようと思いますか。



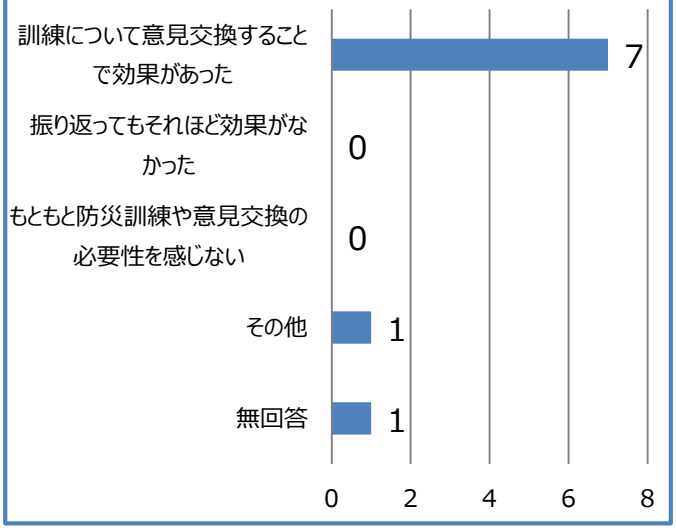
災害時に、家族同士どのように連絡を取るか、家族の中で決めていますか。



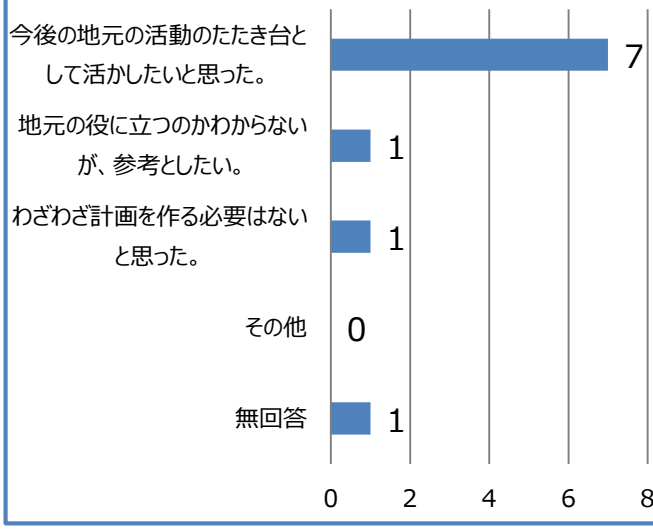
訓練後のワークショップにおいて、地区代表者の防災訓練への意識や、地区での防災の取組についてアンケート調査を実施した。

〇地区代表者（回収数 ： ９）（複数回答）

防災訓練を振り返った意見交換についてどう考えますか。



出屋区の地区防災計画案を見た感想をお書きください。



内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

令和３年度地震・津波防災訓練
（内閣府・鹿児島県志布志市）

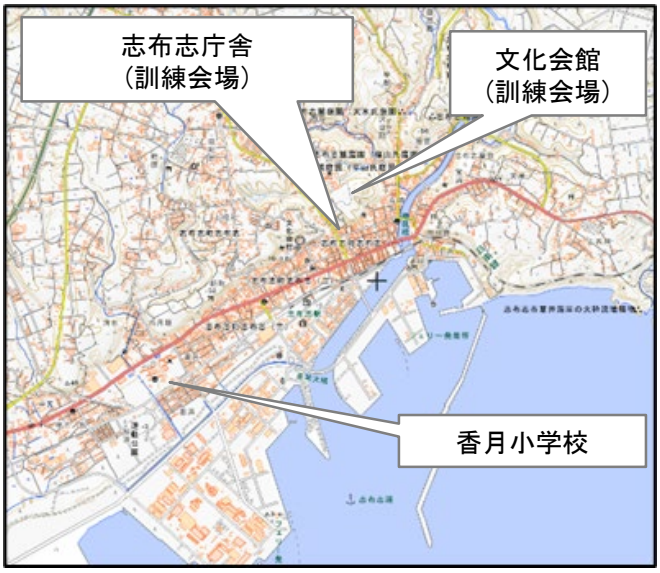
実施報告書
（概要版）

鹿児島県志布志市について

志布志市は鹿児島県東部、志布志湾の湾奥ほぼ中央に位置し、東西約23km、南北に約18kmの扇形の区域で、面積290.28㎢となっており、隣接する大崎町に一部飛び地を有している。

志布志市ではこれまで地震・津波により大きな被害を受けた記録はないが東北地方太平洋沖地震をふまえ、避難路の整備や小学校における防災教育の促進をはじめとしたさまざまな津波防災・減災対策を実施している。その中の一つの取り組みとして、毎年津波防災訓練を実施しているが参加者数は年々減少傾向にある。

市では今回の事業を通じて、地域および市職員の意識向上とともに、地域の自主的な活動による防災力強化の定着をねらい、住民を対象とした防災ワークショップを繰り返し、「地域課題の明確化」⇒「訓練の企画」⇒「訓練の実施」⇒「振り返り」⇒「次年度の訓練等の企画」のサイクルを実施した。



出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和３年11月５日（金）午前10時00分に、日向灘を震源とする地震が発生し、市では震度６弱を観測、鹿児島県東部に大津波警報が発表された。市では、「災害対策本部」を志布志庁舎に、「現地災害対策本部」を有明庁舎、松山庁舎に設置し、関係機関と連携をとり災害対応にあたる。

■実施日時：【訓練実施前ＷＳ】令和３年10月19日（火）14:00～16:00
【訓練】令和３年11月５（金）10：00～12：00
【訓練実施後ＷＳ】令和３年12月７日（火）14:00～16:00

■主　　催：志布志市、内閣府

■参加者数：約70名

■参加機関：志布志市消防団、大隅曽於地区消防組合、志布志警察署、志布志海上保安署、国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所、国土交通省九州地方整備局志布志港湾事務所、鹿児島県大隅地域振興局建設部河川港湾課志布志市駐在機関、市内各自治会、市内事業所、市内幼稚園・保育園・保育所、市内小中学校、市内高等学校等

訓 練 の 評 価

新型コロナウイルス感染症の拡大により、市民を集めての大規模な訓練は実施がかなわなかったが、今後同様の取組を地区レベルで実施していくことを念頭に実施した。訓練当日は天候にも恵まれ、市職員や参加機関等合わせて約72名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、地域住民のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や津波避難訓練の参考となるよう「得られた成果と対策案」を整理した。

【得られた成果】

〇災害対策本部設置訓練については、本庁舎を志布志庁舎に移しての初めての訓練であったが、オンライン会議システムを用いて庁舎間での連絡・情報共有ができた。

〇避難所開設訓練では一部住民参加のもとで受付実施等の開設手続きを確認し、平時からの取り組みの重要性について行政、住民、施設職員、消防団等で認識を共有できた。

【今後の対策案】

〇市内中心部においては地震発生後、市が指定している避難所への避難経路が土砂災害や渋滞等により通行できなくなる可能性があり、市の指定する避難所の他、地区毎に、津波からの一時的な避難先を検討しておくことが重要である。

〇次年度以降について、地区毎の課題に対応した訓練を市の支援のもと地域自らが企画・実施していくことにより地域の防災力のさらなる向上に努める。

10月19日(火)14:00～16:00 訓練実施前ワークショップ

市内浸水想定区域内の公民館長等を対象とし、訓練予定内容の説明のほか、グループワークを通じて、地域の津波防災における課題の再確認や、アドバイザーの近藤准教授(宇都宮大学)による「地域での防災活動のあり方」に関する講演会を実施した。

▼アドバイザー講演（オンライン）

▼参加者による検討内容の発表・共有

11月５日(金)9:00～12:00 実働訓練（シェイクアウト訓練・津波避難訓練等）

緊急地震速報の発表後、市民は、各自の居場所でシェイクアウト訓練を実施し、特に浸水域内の幼稚園や小学校等では市の訓練実施に合わせて園児や生徒の避難訓練が行われた。

消防団や海上保安庁においては消防車両や船舶による避難誘導訓練を実施した。

また、市役所では関係機関及び市の各庁舎（志布志庁舎、松山庁舎、有明庁舎）間で連携し、災害対策本部の立ち上げ及び運営訓練を開催した。

志布志市文化会館にて、避難者の受入れを想定した受付訓練や、避難生活のイメージをもってもらうためのパーテーションの組立・使用体験、訓練の振り返りを実施した。

▼シェイクアウト訓練

▼避難訓練（小学校）

▼避難誘導訓練（消防団）

▼災害対策本部運営訓練

▼避難所受付訓練

▼避難所開設訓練

12月７日(火)14:00～16:00　訓練実施後ワークショップ

訓練についての振り返り及び、アドバイザーによる防災講演を踏まえ、地域での防災上の課題についてワークショップを実施した。

また、継続的な防災力の向上を実現するためには、課題の共有、訓練の実施、訓練の振り返りのサイクルを作り実行することが必要であるとの認識を共有した。

▼アドバイザー講演

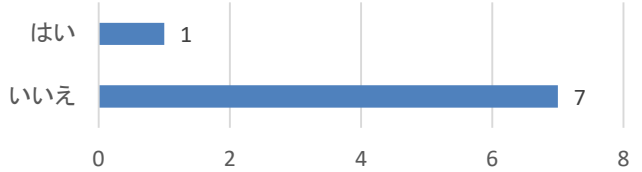
▼次年度訓練内容の検討

アンケート結果

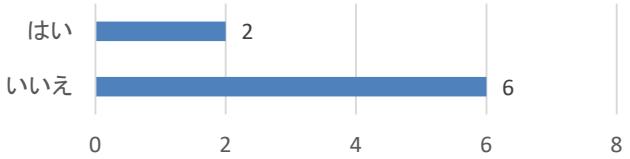
職員の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

〇自治体職員（アンケート回収数：８）

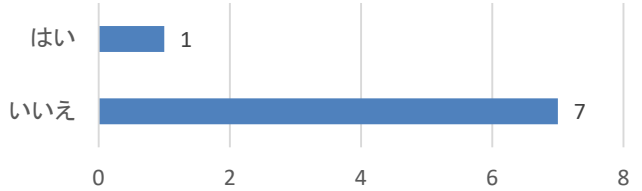
災害が発生した、または発生しそうな時、ご近所での助け合いの方法を決めていますか。



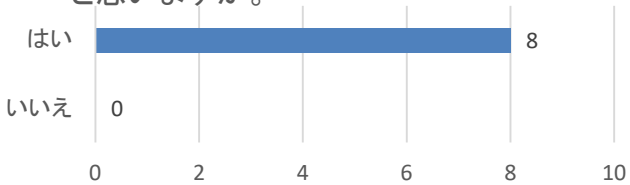
地域（自治会等）で「災害時の避難について」話し合ったことがありますか。



災害時に家族同士どのように連絡を取るか家族の中で決めていますか。



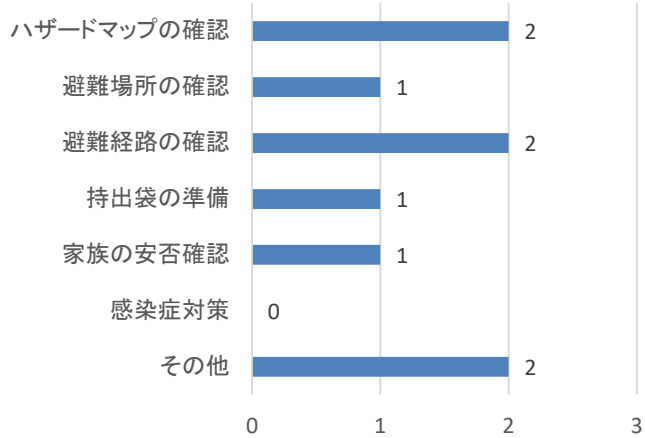
あなたが避難する際に可能ならば「避難行動要支援者」の避難を支援しようと思いますか。



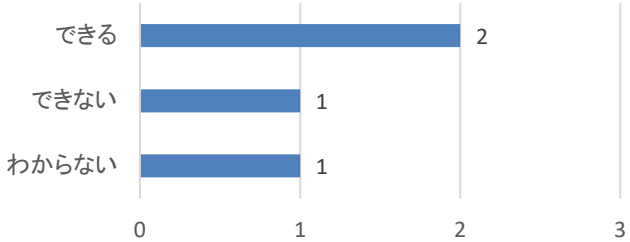
次年度の地区毎の防災訓練実施にむけ、地区代表者の課題意識や実施に向けて市に求める支援、連携のあり方などを把握するためアンケート調査を実施した。

〇地区代表者（回収数：４）

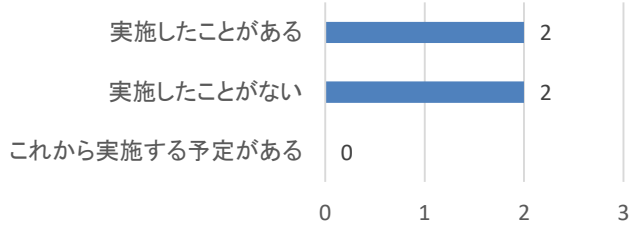
現状、地域で以下のような取り組みを実施していますか。（複数回答可）



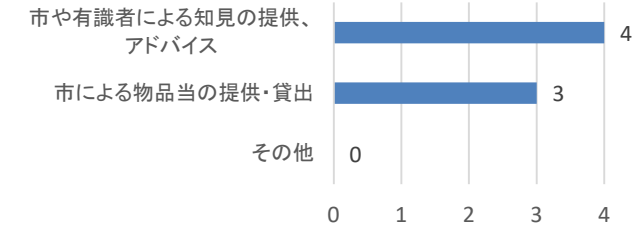
今回のワークショップで検討した内容について今後地域で実施できそうですか。



地域で「地域独自の防災訓練」を実施したことがありますか。



今後、「地域独自の防災訓練」を実施するにあたり、市等からどのような支援があるとよいですか。



内閣府
Cabinet Office, Government of Japan